

オレオレ詐欺(新たな手口)の犯罪事例

【ケース1】業者からカンボジアの土地所有権の購入を勧められ・・・

(50代 女性) 窓口で普通為替を振出し、計 150 万円を郵送した

女性は、犯人からカンボジアの土地所有権の購入を勧められ、45 万円分を申し込むことにした。犯人から、「購入代金は為替を振り出して会社あてに郵送してほしい。」と言われていたため、窓口で現金を持参し、為替証書の振出しを行い、指示された住所あてに郵送した。その後も、追加で土地所有権の購入を勧められ、さらに 105 万円分の為替証書を郵送してしまった。

【ケース2】息子から普通為替にして郵送するよう指示された

(60代 女性) 窓口で通常貯金 300 万円を払戻し、普通為替にして郵送するよう指示された

女性が、通常貯金から 300 万円を払い戻して普通為替証書の振出請求をしようとしたため、窓口社員が不審に思い、オレオレ詐欺チェックリストを使用して確認したところ、「息子から電話で頼まれた。」「為替証書は息子の友人あてに郵送するよう依頼された。」等と回答があった。

窓口担当者は、管理者と一緒に説得を行うとともに、店舗から要請を受けた警察官も加わって説得したところ、ようやく手続を中止し、被害を免れることができた。

【ケース3】銀行に行けば行員に色々聞かれるので、孫の結婚費用と言いなさい

(80代 女性) 預金 400 万円を口座から引き出し、犯人に渡してしまった

女性宅に布団関連業者を名乗る男から、「あなたの家に布団の訪問販売業者が来ないように、各布団業者へ通知して、差し止めの手続きをすることができる」と電話があり、差し止め手続きを依頼したところ、「後日伺います。」と言って電話が切れた。

3 日後、女性宅に若い 2 人組の男が訪問し、「布団の訪問販売業者は高齢者を狙っており、老後のための貯金を狙っている。差し止めの手続きをし、その旨の商標を作って玄関に貼っておくことで、そのような業者は来なくなる。」等と説明された。

その後、銀行の通帳を見せるように言われて見せたところ、2 人組は、通帳の残高 400 万円を引き出してくるよう要求するとともに、「すぐに返すので一時的にお金は預かる。」等と言い、言葉巧みに女性を説きふせて納得させた。

2 人組の言うことを信用した女性は、「銀行に行けば行員に色々聞かれるので、孫の結婚費用と言うように」と指示されており、そのとおりにして銀行から 400 万円を引き出したうえ、その日の午後に再び女性宅を訪問した 2 人組にお金を渡してしまった。